

木屋瀬宿の御触書 目明しと召捕控

木屋瀬みちの郷土史料保存会 松尾 良美

今回の覚書の挿絵は、今を去る百五十六年前に遡る安政七年(1854)二月と書かれた、和紙を長帳にして、紙縫で綴じてある。表題には、「香具屋召捕覚書」と記されており、香具屋の「香」の字は草書体であって、見慣れないくずし字が書かれている。

香具屋の「香具」という屋号は大変めずらしく、縁日や祭礼などの人が多い場所で、見世物などを興行して、品物を売る人達を指し「てきや」とも呼んでいる。

後々の為に書き留めた此の表紙を捲ると「下ノ関大目明・八百屋林蔵」と書かれている。この人物については、「此人は竹

与力や同心の配下(部下)で働いた者達である。この目明しの多くは、以前に軽い罪を犯した者から採用されたようだ。

さて、この香具屋召捕の内容については、「博多古門堂之徳次郎、さぬき松ト申ス松之助此兩人ハ筑前福岡二居大盗人、此者共極めて手練者(熟練した巧みな手ぎわ)と、以上の如く、各地で盗賊を重ねて、その地の目明しが彼等の捕縛に努めていたようだ。盗んだ金の使途についての記録も左記の様に記述されている。「午三月頃二竹崎仁作殿従兄弟・福岡二居ル松之助等兩人ニ而金八両之内三兩使い残り五兩、此内三兩受取又残り二兩ハ黒崎太助内家之者加助預手形出シ仁助殿手元二有」

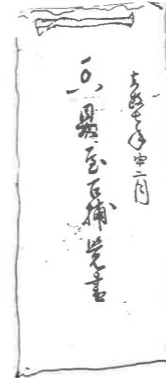
筑前では目明しの事を「すい

ほう」と言っており、「推法」「榨方」とも書かれたが、いずれにせよ宛て字で、「すいほう」の語源はわからない。

庄屋・大庄屋は、江戸時代當時には司法権を持っていて、事件が起きると目明しを使った。捕えた罪人は、郡牢や村蔵(年貢蔵)に入れたのである。また、一間四方ほどの組み立て式の牢(廻し牢)が使われる事もあった。

重罪人の場合は、城下町の福岡へ送り届けた。橋口町(牢屋町)の牢屋と、西新町の揚屋(武士・僧侶・医師・山伏等の未決囚を収容した)である。

郡部の目明しを「郡目明」とい



っていたが、郡を幾つかに分けた「触」には、「すいほう」と呼んで一人いて、その下に助役という部下(手先)がいたそう。

「すいほう」は、自分自身が賭博をしたり、あるいは前科がある者などで、表も裏も知り尽くしているような人物だったという。

江戸時代中期の江戸に於ては、牢内の収容者が一時牢を出て、目明しに預けられ、犯罪者の捕縛に向った事例があるようだ。

犯罪者が罪を軽減されて、目明しとなる事も屢々あった記録もある。目明しという仕事は、悪の世界に顔が利いた人物でないと勤まらなかつたのである。福岡の地でも、前科者や博打打ちを目明しに取り立てることが多かったであろう。

寄せ太鼓

道長崎街木屋瀬宿記念館
北九州市立長崎街木屋瀬宿記念館
運営協議会広報部
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

祇園まつりの熱い夏

盛り上げよう 皆の力で!

本年もいよいよ木屋瀬祇園まつりの時期が近づいてまいりました。本年は七月九日・十日の両日執り行なわれます。全体的には例年五月に実行委員会が立ち上げられ、これを機に具体的な準備が進められます。

輪番制の当番町は青山が改盛町、赤山が東中町となっており両町とも人、物、金の面で苦心の対応を余儀なくされます。

歴史と伝統のある祇園まつりとはいえ当番町として高齢化と世帯数の減などによる課題を抱え、その運営は大抵のものではありません。また、まつりを継承していく若い人の減少や賄い方を受け持つ女性陣の高齢化など側面的な



課題もあり運営の難しさを増しています。

本年の当番町青山の総取締役は改盛町の八尋弘文町会長、赤山の総取締役は東中町の田中巖町会長が受け持つことになっています。

一方まつりの核となる山笠の山車については、須賀神社前の山笠会館でその台座に座る人形作りが急がれています。



昨年の七夕まつり

若い人の熱い思いがこの人形作りにこめられています。ところでお祭りにお酒はつきものでありますが、まつりのお酒の勢いで当番町の運営を困らすような言動は厳に謹んでいただきたいと思います。当番町としては、まつりに遺漏のないよう精一杯の心配りと努力をしておりますので皆さんのご理解とご協力を心からお願致します。

まつり本番は、お汐取り、両町の事務所開き、山笠の巡行、山笠奉納、宵山笠、追い山、宮入り、と流れに沿って勇壮かつ盛大に執り行なわれます。

地域住民の皆様におかれましてはこのまつりが各町の負担金や住民各位の寄付金によって賄われることを改めてご認識いただき物心両面でのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

総合問い合わせ先
長崎街道
木屋瀬宿記念館
093
619-1149

夏休みイベントについて

木屋瀬宿記念館では、毎年恒例のたなばたまつりを8月6日(土)に開催する予定です。今回も人形劇や天体観測等楽しい催し物を多数予定しておりますので、ぜひお越し下さい!皆様のお越しをお待ちしております。

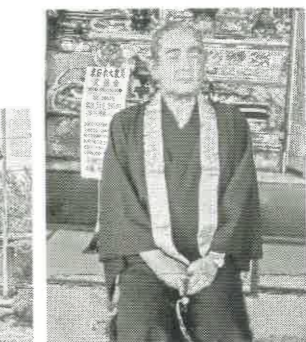


昨年の七夕まつり

シリーズ 筑前木屋瀬宿 神仏めぐり 第三十七回 浄土真宗本願寺派 龍頭山 長泉寺

十八世 釈 正真住職を訪ねて

柿若葉が一段と目に冴える4月の終りの頃、野面の長泉寺の御住職を訪ねお話しを伺いました。長泉寺は、往古は普門寺と称し、禪宗の寺でありましたが、慶長九年(一六〇四)浄土真宗本願寺派に改宗し現在に至り四〇〇年を超す古刹です。



寺の前の広場には、新しく駐車場が新設されています。この駐車場は、前住職の往生を機に前坊守の発案により、前住職が残された浄財を使い、門信徒会のご懇志により整備されたものと石碑に書かれています。石段を登ると入口に堂々とした山門があります。



この門は、黒田藩筑前鷹取城の二の門が移築されたもので、山門の柱は一本の玉櫛から木取りされたものと伝えられ、大変貴重な文化財です。本堂も何度か修復されていますが、江戸時代の建築で歴史が感じられる落ち着いた本堂です。

さて、十八世 釈 正真住職は、今年で六十一歳になられます。長泉寺で生まれ育ち、宗門の学校で仏教を学ばれ、縁あって、障害を有する子供達と出会い、京都の知的障害児施設宇治福祉園に奉職され、その後、重度の身体障害児者の支援施設に三十数年勤務しておられ、寺に戻るこ

とは無いと思われていたようですが、お兄様の往生により、長泉寺の法統を継承すべく寺に戻られ、平成十七年長泉寺第十八世の住職を継職されました。「今年 前住職の十三回忌を勤めます」と話されました。住職を継職されてから、寺の宝物の一つである「大蔵經」の修復を前住職から引き継ぎ、門信徒の協力を得て、六千九百巻に及ぶ経文を修復整備して経蔵に収められました。又、毎朝ご門信徒と一緒に、勤行し、親鸞聖人の御教えを、読み、聞く、朝事を行ってまいります。宗教離れ、仏教離れが、言われる昨今ですが、お尋ねすると、「どのよう社会が変化しても、人間の本质は、二千年五百年前のお釈迦様が悟りを開かれた時と変わらない。人間の苦悩の心に寄り添い立ち向かう仏教、親鸞聖人があきらかにされた阿弥陀様のみ教えは真実であるので、正しく熱意を持って伝えることが出来れば、人々の心を癒し力を与え、現代社会の人間に必ず必要とされるでしょう」と語られました。

山門の語る昔や雲の峰
山門の語る昔や雲の峰
山門の語る昔や雲の峰
山門の語る昔や雲の峰

節句

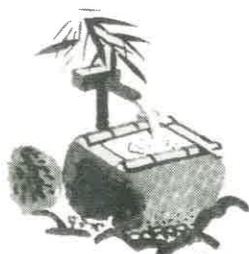
五月の節句(子供の目)

古来日本の五節句は女を中心とした祭りであったため、五月五日も女の節句であった。この日娘達が集まり外の小屋に菖蒲の葉で屋根をふく、こうした儀式を終り娘の宿と呼び、菖蒲の宿とも呼び、この小屋の中で人間の象徴として円錐形に作られた粽や柏餅をいただき、賑やかに華やかに菖蒲の節句を祝っていた。

て江戸の商人が吹き流しの原理から考案したものであるが、吹き流しと鯉職と幡とは男の子の祭りにふさわしくて勇ましく大空を見上げさせてくれる。

農業節句(七夕)

中国では星の信仰や星占いが盛んだが、日本で星の神さまを祭るのは七夕が主である。七夕と言えは暑い



わたしの昔話

内には悪物をたたきつづす強力と信じられていた鐘馗大明神を飾った。

も、家紋と鐘馗大明神は必ず画かれていた。虫干しをかねて鎧や戦道具も飾り、御神酒とお洗米を供えたりした。鯉職は、ずっと後になっ

織姫の機糸をソーメンになぞらえ、七夕にソーメンを供え、必ずソーメンを食べていた。夏の贈り物に、ソーメンを多く用いたのは七夕信仰に始まったものがある。

女のお星さまが機織りがお上手だと信じられ、女性がお願いすれば手仕事が入り手になると言う信仰心に盛

柴田豊廣遺稿集より

本町 柴田由美子

記念館運営協議会総会

去る4月22日(金)19時から、こやのせ座で北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会の総会が開催され、平成27年度事業報告及び決算、平成28年度事業計画及び予算が承認されました。

新任職員紹介

4月25日から長崎街道木屋瀬宿記念館職員として着任いたしました。木屋瀬の伝統や文化を学びながら、また多くの人々に木屋瀬の魅力を知っていただけるよう努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



井上 利子

企画展報告

「長崎街道 ひなまつり 木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋」(平成28年2月21日(日)～3月27日(日))は、昨年度行いました「長崎街道 ひなまつり 木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋」に引き続き、石坂の立場茶屋銀杏屋と木屋瀬のもやいの家、旧高崎家住宅(伊馬春部生家)、木屋瀬宿記念館の4施設連携で行いました。それぞれの施設で趣を変えて、古式の雛飾りやさげもん等の展示を致しました。期間中、749名とたくさんの方に来館していただきました。



また、第62回企画展「絵本長崎街道宿場を往く 原画展」(平成28年4月23日(土)～6月12日(日))絵本作家の中村武氏のご家族はじめ、漫画ミュージアム館長 田中時彦氏のご協力の元、中村武氏が約20年の歳月を掛けて描き続けた木屋瀬を含めた長崎街道宿場町の絵画24点を展示いたしました。期間中、337名(平成28年5月20日現在)の方にお越しいただきました。ありがとうございました。



木屋瀬芸術祭 — 充実してきましたよ —

5月のゴールデンウィーク3・4・5日に今年も「第15回木屋瀬芸術祭」を実施しました。内容はほぼ前年同様ですが、少しずつリメイクして行いました。前年全日本マーチング大会で見事金賞を受賞した木屋瀬中学吹奏楽部の演奏で開幕。新一年生も38名が入部したとのことで大いに賑わいました。夏の大会に向けてこれから勝負と土谷先生も気合いが入り、今後の活躍に期待したいと思います。

ハンギングバスケット講習も回を重ねるごとに盛会となり、予約がいっぱいの状況でした。講習は受けられませんが、見学だけでもと言われる方々も参加頂きました。

明治の世界産業遺産について生野北九州マイスターから詳しく講演をして頂きました。

筑前六宿関係では「筑前の鶏肉・鶏卵の食文化を中心」というテーマに竹川克幸先生に歴史的な背景を交えた講演のあと、六宿代表による歴史談義を行いました。筑前六宿連携事業実行委員長(梅本静一会長)より今年も筑前六宿子どもサミットを7月に開催すると報告があり、歴史談義のあと六宿関係者と協議も行われました。

郷土芸能連絡会議には、筑前各地の盆踊り8団体が集まり踊りを披露し、昨年同様一般の方にも楽しんで頂くように会場を設営し、午後からの懇親会では八幡西区役所のコミュニティ支援課の荒田課長にギター漫談や弾き語りの演奏で、会場と一体となって皆で合唱し大変盛り上がりしました。最後に大切な連休をボランティアでご協力を頂きました皆さまに心より御礼申し上げます。有り難うございました。

運営部会長 山田 靖

